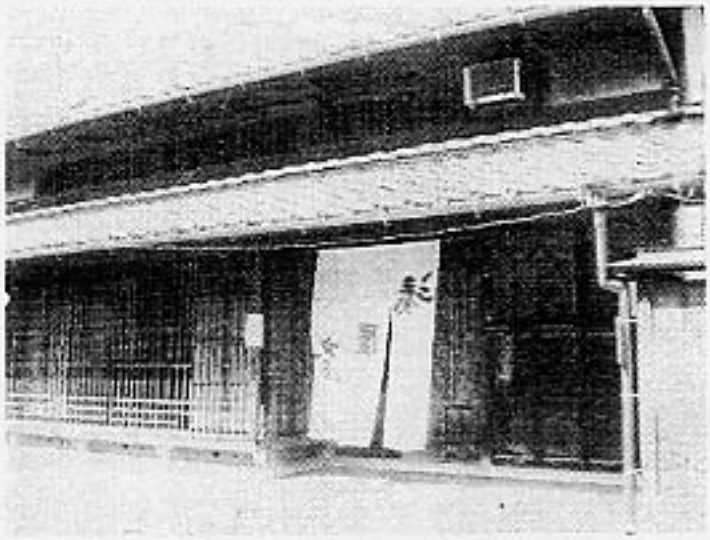
美濃路起宿「湊屋文右衛門邸」で「いちのみや大学」歴史講座開催

濃尾地震にも耐えた主屋を見学し舟運学ぶ

一宮市起の「湊屋」で、「いちのみや大学講座～湊屋の見学と美濃路起宿～」が開催された。

湊屋は、江戸時代に起宿で船庄屋も務めた脇本陣林家を補佐した商人の湊屋文右衛門邸で、明治二十四年の濃尾地震の被害も免れ、旧堤防上に往時の姿そのままに現存している。個人所有だが無住となっており、同市西島の大島八重子さんが中心となって湊屋倶楽部を立ち上げ、文化活動など有効活用させてもらっている。また、建物は国の登録文化財にも申請されている。

今回は文化、芸術、歴史、社会福祉など各テーマで講座を実施している「いちのみや大学」（同市大和町・有限会社人の森内）が、歴史分野の講座として湊屋を中心とした起宿について学んでもらった。約三十人の〝学生〟が参加し、同市尾西歴史民俗資料館の神田年昭学芸員を講師に招いた。



美濃路起宿に残る「湊屋文右衛門邸」

神田学芸員は、江戸時代の地場産業だった結城縞や桟留縞、さらに年貢米の舟運の拠点機能を果たしていたことや、このほかに木曽川上流からの木曽の木材、美濃の川原、刃物、和紙、薪。下流域からの三河湾の塩、知多半島の酒、酢、醤油、常滑焼きなど中継していた役割を説明。

さらに、玄関、土間、台所、見世、奥見世、中の間、仏間、居間、お座敷のほか階数に入れない〝つし二階〟といわれる部屋がある木造平屋建主屋の天井裏には、鼠除けに「いが栗」が敷き詰めてあるユニークな仕掛けも紹介。このあと、参加者は主屋の内部や江戸末期に造られた土蔵なども見学し、タイムスリップをしたような空間で往時の美濃路の活況ぶりを体験した。

一宮タイムス
【日刊
株式会社
一宮タイム
一宮市大宮3
TEL(0586)7
FAX(0586)7
編集発行人
高橋

明るく楽し
一宮競
26
27
28
早朝前売午前7
尾張一宮駅より無

ーラス四チームが